

平成31年度西区自治協議会提案事業

地域課題解決に向けた事業提案を募集します

西区の地域課題の解決を目的として、西区自治協議会と協働することで相乗効果が見込まれる事業を募集します。詳しくは、区ホームページまたは西区地域課に設置の応募要項をご覧ください。

- 対象事業 応募団体が実施する事業で、次の①～④のいずれかに合った、西区民を対象または西区内で実施する事業(建設・工事などを除く)
①管理不全な空き家にならないための取組み(研修会、ほか)
②地域の担い手育成等(講座、研修会、ほか)
③支え合いのしくみづくりの輪を広げる取組み(活動事例集、ほか)
④区の魅力発信・賑わい創出(魅力発信の取組み、ほか)

- 募集期間 平成31年4月26日(金)まで
事業費 1事業につき上限50万円
応募資格 市内に活動拠点を有する非営利の団体(法人格の有無は問わない)で、区内に在住、在勤又は在学する者5名以上の構成員を有すること。宗教、政治に関する団体、暴力団ではないこと。

- 応募方法 次の書類を募集期間中に事務局へ提出
①事業提案書 ②応募団体調書
③その他団体の会則など必要書類(任意)

※募集要項及び①、②の書式は、区HPよりダウンロードできます
その他 西区自治協議会で、書類審査及びプレゼンテーション審査を実施し、予算の範囲内で採択します。採択結果は6月下旬お知らせします。

問い合わせ 広報紙1面の「事務局」あて

新春 お年玉付きクロスワードパズル

答え にしくのたから

西区には佐潟をはじめとする自然や美味しい農産品など、多くの宝があります。

昨年より153人多い425人の方からご応募をいただき、当選者20名には、図書カードと西区PR「絵入りはがき」を3月中旬に発送しました。

いただいたご意見は、私たちにとって宝物になりました。ありがとうございました。

- 地域カルテ研修会の記事について、自分の自治会で何ができるか考える良いきっかけになりました。
西区自治協議会の活動内容をもっと区民にアピール・発信してください。
区民としてまちづくりに取り組みたい。

抽選の様子(西区ふれあい・ふゆまつり会場にて)



西区自治協議会広報紙の配布方法・形式等が変わります

平成31年度から、本紙の配布方法を自治会委託から新聞折り込みに変更します。新潟日報・毎日・朝日・読売・産経・日本経済新聞の6紙に折り込んでお届けします。

なお、本紙は、西区役所ホームページでもご覧になれます。(左下 二次元コード)

また、市報にいがた・西区役所だよりの配送申込みをしている方には、本紙を同封いたします。新聞未購読世帯の方で、配送申込みを希望される方は、市役所コールセンター(電話:025-243-4894)またはインターネットに申し込みください。

市報にいがた 配送 検索

「2019西区ふれあいカレンダー」記載誤りについてのお詫び

10月掲載写真の撮影地、10月22日の日付欄の記載は、正しくは以下のとおりとなります。

- 10月掲載写真の撮影地: 黒崎市民会館
10月22日の日付欄: 即位礼正殿の儀
謹んでお詫び申し上げます。

編集後記

本紙は、平成24年の創刊以来、7年間にわたって様々な情報をお届けして来ました。第29号は、平成最後の刊行となります。1面には、自治協議会全委員が3回にわたって、降雪時の支え合いの取り組みについて、議論した内容を掲載しています。次号からは、新しい元号の下に、新しくタブロイド版で再登場いたします。引き続き、「愛読くださるようお願いいたします。」(大谷一男)

募集しています

広報紙や自治協議会活動についてのご意見

住所・氏名・連絡先をお書き添えの上、広報紙1面の「事務局」あてに郵送または電子メールにて送付ください。

あなたの「自慢の写真」(家族風景イベント等)に住所・氏名(氏名必須)ペンネームがあればペンネーム掲載・連絡先・写真タイトル・コメントを添えて応募ください。(電子メール可)採

用者には100円の図書カードを贈呈。応募写真は返却しません。締め切り6月末日(次号掲載予定)。送付先/

広報紙1面の「事務局」あて。

私にとっておきの一枚
タイトル: 日本海の夕日
コメント: 空と海があかね色に染まる日本海夕日ラインです。
氏名: 志賀 信正 さん



パソコン・スマートフォンでもご覧になれます! Web版西区を豊かに(西区役所ホームページ内)

西区を豊かに 第29号

発行者 新潟市西区自治協議会 会長 岩脇 正之
事務局 〒950-2097 新潟市西区寺尾東3丁目14番41号 西区地域課内
TEL: 025-264-7161 FAX: 025-269-1650
E-mail: chiiki.w@city.niigata.lg.jp

西区の宝物をたくさん詰め込んだロゴマークです。新潟スイカ、赤塚大根、くろさき茶豆、佐潟の白鳥。その上に日本海に沈む夕日と大学を表す博士帽を乗せました。

【支えて・支えられて】住みよい西区に

西区自治協議会では、地域の支え合いに改めて目を向けてみよう、検討会を3回もちました。
昨年の豪雪時の除雪の様子を話題の中心としました。なお、2、3回目は会場を移しての出張開催でした。

第1回目 10月26日 会場 西区役所健康センター棟 ★支え合いの取り組み事例紹介・情報交換

西区役所建設課から、道路状況により除雪車では対処しきれない実態があり、地域の力を借りなければならないこと、平成31年から除雪車運転手のスマートフォンでより効率よい対応を目指していることなどの話がありました。

公助に頼るだけでなく、自宅前の雪くらいは自分で処理したいと思って自力では困難な高齢者などもあります。地域の支え合いで取り組んでいる事例発表を聞き、そのあと各地域の実態を報告しました。

【新中浜町内会おたすけ隊】 会長 倉林正喜氏の発表(一部抜粋)

※今年で隊の結成8年目。現在除雪隊員15人。除雪支援を希望する要援護世帯(申請登録14世帯、登録外8世帯)や通学路・交差点等の除雪実施。事前に回覧板で自宅廻りの除雪依頼希望者の情報を集めておく。

※隊員1時間1,000円の手当を支給。1日3時間を限度。空き家における除草、ごみ処理、側溝の掃除等を依頼する住宅所有者を募り、処理への礼金を活動資金に充てている。

第2回目 11月29日 会場 新潟国際情報大学(出張)

★課題の洗い出し

「西区支え合いのしくみづくり会議」の加野麻理子推進員から、第1回のふりかえりとして、共助が進んでいる地区がある一方で、支え手のマンパワー不足や気軽にSOSが出せない現実もあるなどの報告を受けました。その後グループに分かれて実態を話し合いました。

住宅地では「近所付き合いが弱くなっているという傾向もあるが、除雪の時は結構助け合いがみられた。ただそれが恒常的、組織的な支え合いの動きにつながっていない」一方農村部は、「昔からの付き合いが深いから、現在は自助・共助の動きがみられるが、それを将来にどうつなげていくかが問題」など、地域による課題の違いもみえてきました。



新潟国際情報大学へ出張

第3回目 12月21日 会場 黒崎市民会館(出張)

★支え合いの輪を広げる解決策

地域別4グループでの話し合いと結果報告をしました。

- 日ごろからの交流活動が大切。休日に一斉除雪の日を設け若い人もまき込んだ活動で汗を流したり、茶話会をしたり……
標語募集・自治会等の広報紙でPRなどを行い、支え合いへの意識高揚
各中学校別に実施している防災訓練の機会などに、支え合いで活躍している中学生等の事例紹介
SNS活用のネットワークづくりで若者の力に期待
コミ協・自治会などは、うまく動いている地域の様子を参考に、自分たちの地域に合った実践可能な活動の形を検討



黒崎市民会館へ出張

除雪のみならず、「支えて・支えられて」助け上手・助けられ上手が大勢いる西区にしていきたいものです。自治会などで支え合いの方策を話し合うときには「支え合いのしくみづくり推進員」にご連絡いただき、相談仲間に加えていただけるとありがたいとのことでした。(支え合いのしくみづくり推進員: 西区社協内 電話025-211-1630)